取付説明書

洗面化粧台

ルミシス・XV

取付前の注意

●取付けに際しては必ずこの取付説明書に従い正しく取り付けてください。
※この取付説明書に記載されていない方法で取り付けられ、それが原因で故障を生じた場合は、商品の保証を致しかねますので十分ご注意ください。
※水栓金具、即湯システムについては、それぞれ付属の説明書に従い正しく取り付けてください。
●「保証書（取扱説明書裏表紙）」は貴店名、取付日を忘れずに記入の上、必ずお客さまにお渡しください。
●取付業者さまは、商品に欠陥を生じさせる可能性を有しているゆえに、取付業者さまが欠陥を生じさせた場合は過失責任を負うことを十分認識いただき、お客さまが安全で快適にご使用できるようにご協力ください。
●付属部品の内容と数量が合っていることを確認してください。

安全のために必ずお守りください

ここでは取付けに際して守らないと人身事故や、家財の損害に結びつく注意事項を挙げています。
作業前にこの項目をよくお読みいただき、正しく取り付けてください。

用語および記号の説明

⚠警告‥ 取扱いを誤った場合に、使用者が死亡または重傷を負う危険な状態が生じることが想定されます。

⚠注意‥ 取扱いを誤った場合に、使用者が軽傷を負うかまたは物的損害のみが発生する危険な状態が生じることが想定されます。

⚠……「注意しなさい!」（上記の『警告』、『注意』と併用して注意をうながす記号です。必ずお読みになり、記載事項をお守りください。）

⃠……「してはいけません!」（一般的な禁止記号です。）

……「分解してはいけません!」

❗……「指示通りにしなさい!」（一般的な行動指示記号です。）

⚠ 警告

●電気・水道工事は関連する法令・規定に従って、必ず「有資格者」が行ってください。
※火災や漏電、漏水を引き起こす恐れがあります。
●修理技術者以外の人は絶対に分解したり修理・改造は行わないでください。
※ケガや故障が生じる恐れがあります。
●ストーブやヒーターなど熱を発生するものの近くに設置しないでください。
※変色や変形、火災をおこす恐れがあります。

⚠ 注意

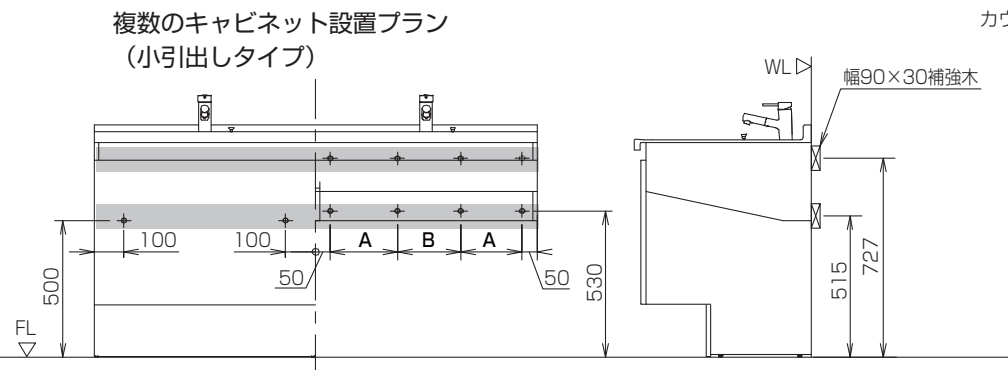
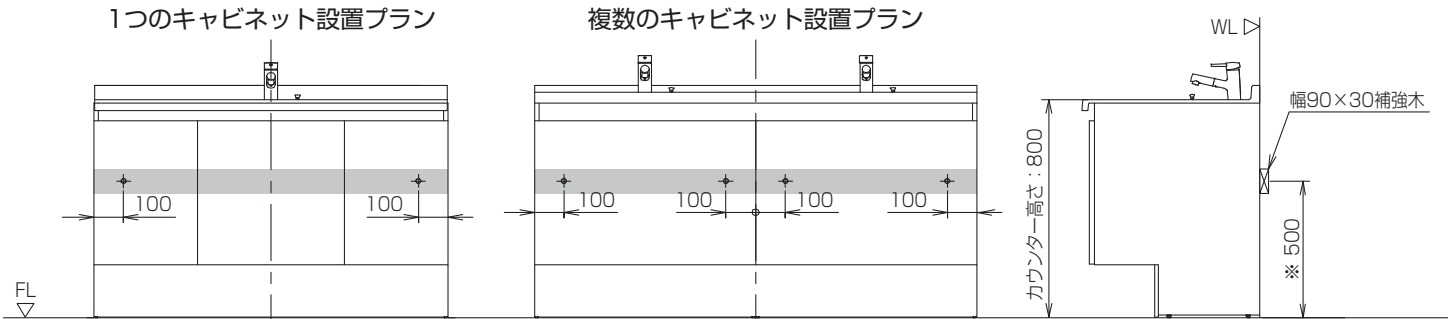
●スライド蝶番の調節後は必ずAねじ、Cねじ、取付ねじが固く締め付けられていることを確認してください。
※締付けが不足しますと蝶番がゆるみ、扉の外れ、落下によりケガをする恐れがあります。
●温水を逆に配管しないでください。
※水を出そうとしても、湯が出てヤケドをすることがあります。
●電源プラグを抜くときは、電源コードを持たずに必ず先端の電源プラグを持って引き抜いてください。
※感電やショートして発火することがあります。
●電源は必ず専用のコンセントからお取りください。また、コード類を束ねたまま使用しないでください。
※発熱の恐れがあります。
●浴室内などの高温多湿な場所や水が浸る可能性がある床面には設置しないでください。
※木部が水を含んで腐ったり、漏電や感電の恐れがあります。

お願い

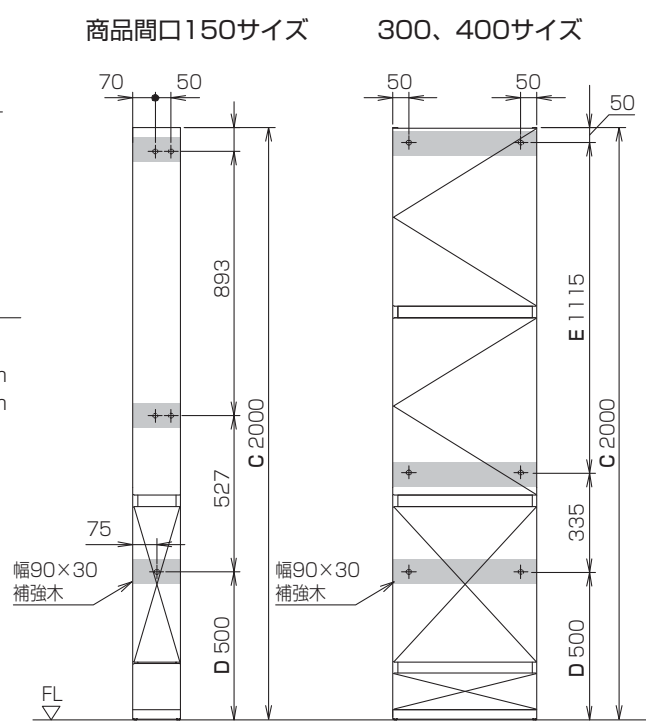
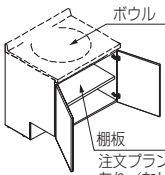
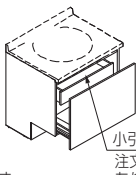
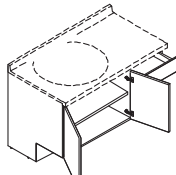
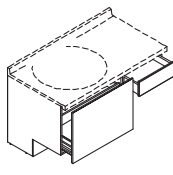
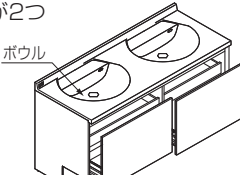
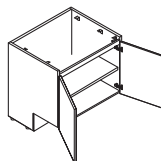
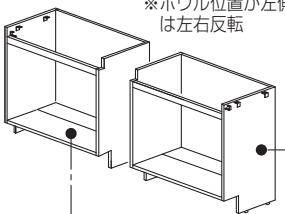
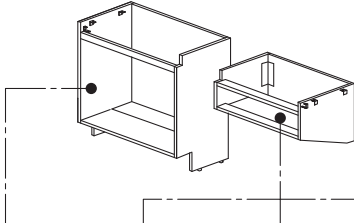
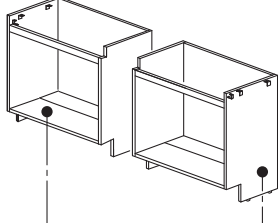
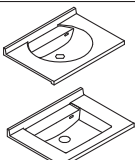
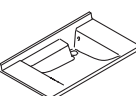
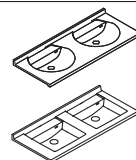
●直射日光が当たる場合は必ずカーテンなどでさえぎってください。また、スポット照明や殺菌灯を直接当てないでください。
※変色や変形の原因になります。
●不陸が5mm/2mを超える場合は必ず壁を施工しなおしてください。
※不陸があるまま取り付けるとキャビネットがひずむ場合があります。
●洗面器やカウンター表面はキズつきやすいので次の点について注意して作業してください。
・キャビネットや工具などの固い物を洗面器やカウンター上に落としたり、乗せてひきずったりしないでください。
・洗面器やカウンター上に乗らないでください。
※洗面器やカウンターにキズが付くと補修しても完全に元の状態には戻りません。
●酸性、アルカリ性および塩素系の洗剤類、ベンジン、シンナー、ラッカー、アルコールなどの溶剤や油類を使用して本体をふかないでください。
※変色や変形の恐れがあります。
●壁面工事や建築仕上げ工事に使われる溶剤・接着剤・洗剤・その他の薬品類は、容器などに記載の注意事項にしたがってお使いください。人体に影響が出たり、使用部材の損害や劣化の原因になります。
●排水栓に磁石を使用しています。
・心臓ペースメーカーなどの電子医療機器を装着した人に排水栓を近づけないでください。安全性の確認については電子医療機器の取扱説明書をご覧ください。
・排水栓を磁気カードなどの磁気記録媒体に近づけると、データが破壊されて使用できなくなる恐れがあります。また、精密電子機器に近づけると故障の原因になる可能性があります。

寸法図

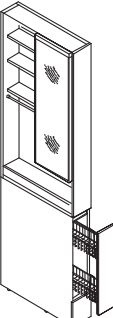
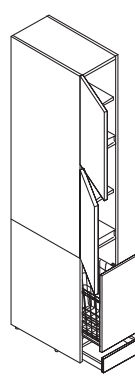
※詳細の寸法・固定位置は承認図をご確認ください。

■化粧台キャビネット

<単位：mm>

製品間口	300~500	550	600	650	700	750	800	850	900
A	0	225	250	275	300	175	200	225	250
B	0	0	0	0	0	300	300	300	300

■周辺キャビネット

<単位：mm>

C 製品高さ	1950	2000	2050	2200
D	450	500	550	500
E	1115	1115	1115	1315

付属部品

■化粧台キャビネット

カウンター特徴	ボウルが1つ ボウル 棚板 注文プランにより あり／なしが存在します。 小引出し 注文プランにより あり／なしが存在します。							ボウルが2つ ボウル	
カウンター下に設置するキャビネット数量	1つ	2つ		2つ（小引出しタイプ）				2つ	
イメージ		図はボウル位置が向かって右側になる場合 ※ボウル位置が左側になる場合は左右反転							
製品間口（mm）	750～1350	300～900	900～1150	900	300～500	550～700	750～900	750～900	750～900
固定用ねじ (平頭Φ5.3×60mm、化粧キャップ)	2本	2本	2本	2本	4本	6本	8本	2本	2本
キャビネット連結用ねじ (平頭Φ3.8×28mm、化粧キャップ)	–	2本	–	–	4本	4本	4本	–	2本
手掛け固定用ねじセット (十字穴付きなべ小ねじ：Φ4×12mm…2個 十字穴付きなべドリルねじ：Φ4×13mm…2個)	1セット	–	1セット	1セット	–			1セット	–
けこみ板固定金具セット (固定金具　×2個 十字穴付き皿タッピンねじΦ3.5×15mm)	1セット (けこみ収納タイプ…0 体重計収納タイプ…2セット)			1セット (けこみ収納タイプ…0)					
キャビネット用スペーサーセット ※部材数量は、専用の取付説明書参照	–	–	キャビネット総間口が1550mm以上の場合…1セット	–				–	1セット
けこみ用スペーサーセット (オプション：けこみ収納設置時のみ)	けこみ収納タイプ…1セット				–			けこみ収納タイプ…1セット	
間口調整材セット ※部材数量は、専用の取付説明書参照	プランにより 0～2セット								

■水栓金具・排水器具

カウンター特徴	排水口が中央にある	排水口が右奥にある	ボウルが2つある
カウンター名称	サークルカウンター スクエアカウンター	SJカウンター	サークルカウンター2連 スクエアカウンター2連
カウンターイメージ			
水栓金具	1セット		2セット
排水レリースセット	1セット	1セット (間口によっては、カウンターに取り付けて出荷)	2セット
ヘアキャッチャー	1個		2個
横引き管	1本	–	2本
排水エルボ	1個	–	2個
偏芯管セット	–	1個	–
排水トラップ	1個		2個
排水アダプター	1個		2個
排水プレート	1個		2個
水受けタンクセット	1セット (水栓金具の種類による)		2セット (水栓金具の種類による)
スポンジパッキンセット	1セット		
カウンター固定ねじ トラスΦ4×16mm	4本		
取付説明書・取扱説明書 お手入れガイド	各1部		

※手掛け部材セット、けこみ板セットは別梱包で出荷しております。

■周辺キャビネット

商品間口	150サイズ	300サイズ 450サイズ
イメージ		
固定用ねじ (平頭Φ5.3×60mm、化粧キャップ)	6本	
キャビネット連結用ねじ (平頭Φ3.8×28mm、化粧キャップ)	2本	
棚板	2枚	
棚受けダボ	8個	
S字フック	2個	–
網カゴ	–	1個
けこみ用スペーサーセット	1個	
間口調整材セット ※部材数量は、専用の取付説明書参照	プランにより 0～1セット	

取付前の確認

即湯システムについては、付属の取付説明書をご覧ください。

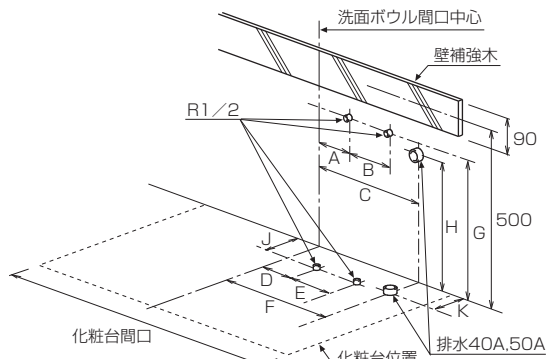
1. 給水・給湯の確認

給水・給湯の条件、水栓金具の設置条件は別紙説明書（水栓金具に付属）をご覧ください。

2. 配管工事の確認

給水・給湯管および排水管が所定の位置に指定の給排水管仕様で取り出してあるか確認してください。

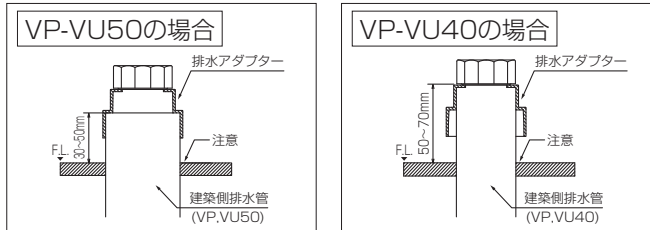
⚠ 注意

湯水を逆に配管しないでください。
※水を出そうとしても、湯が出てヤケドをすることがあります。

		標準取付時 W750～W1200
A		40
B		100
C		285
D		40
E		100
F		285
G	750※	330
	800※	380
	850※	430
H	750※	290
	800※	340
	850※	390
J		80
K		80

※カウンター高さを表わします。

●床排水は下図のとおり取り出してください。

VP-VU50の場合

VP-VU40の場合

⚠ 注意

建築側排水（VP・VU管）は必ず指定の取出寸法範囲内で取り出してください。
※取出寸法が短いと、排水トラップと接続できず、漏水を引きおこす恐れがあります。

●壁排水の場合は市販の排水アダプターを使用してください。
●建築側排水管と開口部にすき間がある場合は、シリコンでコーキングしてください。

3. 壁面工事の確認

⚠ 警告

取付強度を保てない場合、キャビネットが落下してケガをする恐れがあります。下記事項が守られていることを事前に確認のうえ、取り付けを行ってください。

●**この説明書に記載されている「キャビネットを取付可能な壁面」以外には、取り付けないでください。記載の条件を満たさない場合は、壁を施工しなおしてください。**
●**壁の不陸が5mm/2mを越える場合は、必ず壁を施工しなおしてください。**
●**壁固定ねじは指定のものを、指定本数使用してください。**

乾式壁の場合

●**幅90mm×厚み30mm以上の補強木を「ねじ固定位置」（P1の寸法図参照）に必ず設けてください。**
●**補強木は必ず柱・間柱・縦桟木など建築躯体に固定してください。また、補強木の固定部材は、キャビネットの固定強度（図1乾式壁参照）と同等以上になるよう、種類・数を選定してください。**
●**壁固定ねじが補強木の中心に25mm以上かかるように固定してください。**
●**壁固定ねじを補強木に届かせるため、壁仕上げの総厚さは12.5mm以下にしてください。**
●**石こうボードなどで補強木が見えない場合は、工務店さまに位置および固定方法を確認してください。さらに針刺しなどで壁固定ねじの位置に補強木の中心があることを確認してください。**
●**リフォームなどの現場で補強木位置が不明な場合は、石こうボードなどをはがして確認してください。また、補強木がない場合は必ず補強木を取り付けてください。**

湿式壁の場合

●**コンクリートブロック壁の場合、中空部はモルタル詰めしてください。**
●**AYボルトを壁本体に届かせるため、壁仕上げの総厚さは20mm以下にしてください。**
●**壁固定ねじに合ったAYボルトを使用して、キャビネットを取り付けてください。**

キャビネットを取付可能な壁面

図1 乾式壁

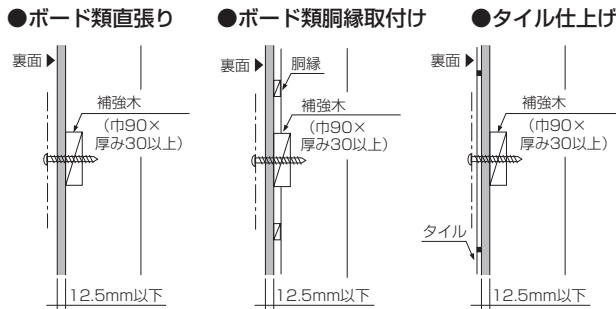
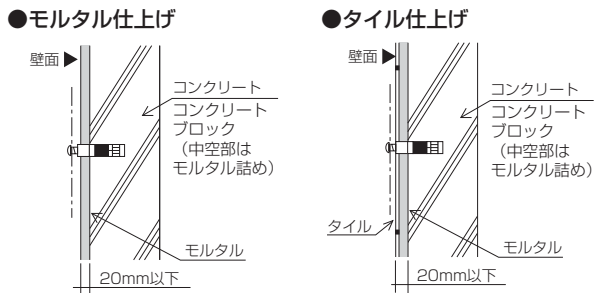



図2 湿式壁

※本文中のねじ固定に関する記載は、乾式壁の場合についてです。
湿式の場合は、下記要領で固定を行ってください。

〈湿式壁の場合の取付方法〉
①AYボルトの位置を確認し、位置出しをします。
②壁にφ7.5mmの下穴をあけ、切粉をよく取り除きます。
※下穴は電動ドリルを使用し正確にあけてください。
③AYボルトを挿入してゴム筒を押さえてボルトを抜き取ります。
④キャビネットを壁面に当て、ねじ穴からボルトで固定をします。

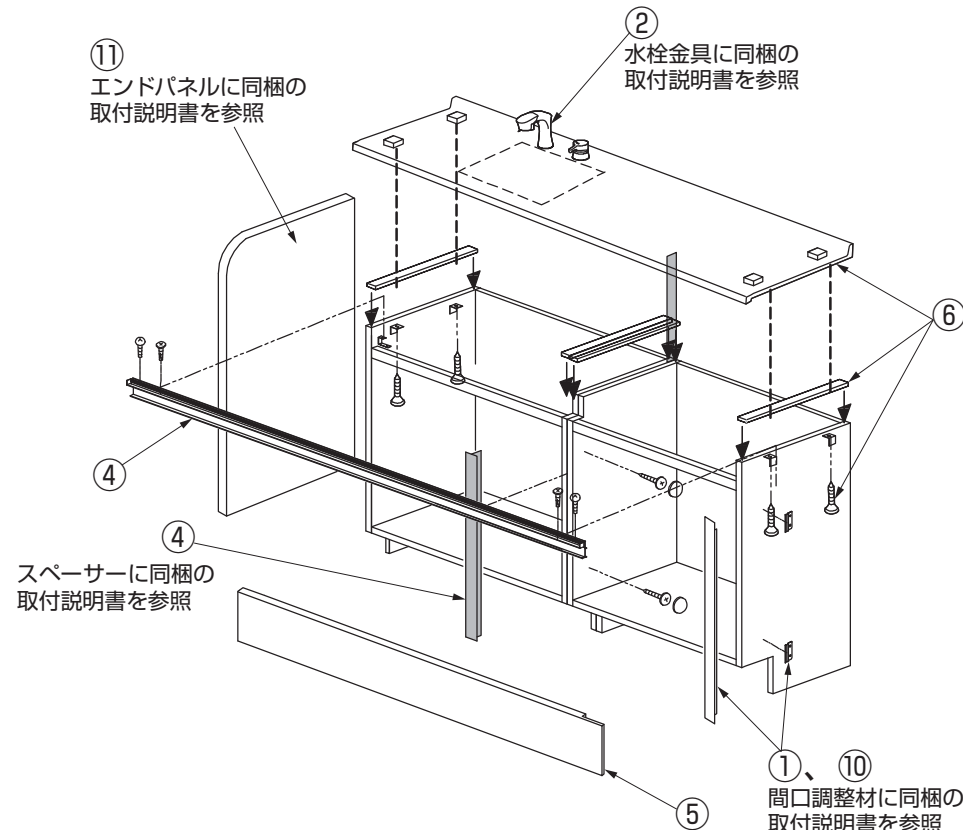
（別途手配）
AYボルト：＃KB-4X60SC(AY)
※皿φ4×60mm2本、皿ワッシャー2個、化粧キャップ（白）2個入り
※化粧キャップ（黒）は、各キャビネットに付属のものを使用してください。
（あるいは、＃KC-6を別途手配）
（取付穴7.5mm、深さ60mm以上）

4. 床面の確認

●設置する床は水平で著しい凹凸や不陸がないことを確認してください。
●床面は強固でグラつき、たわみが生じないことを確認してください。
※キャビネットがグラついたり、取付精度（納まり）が悪くなる恐れがあります。

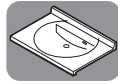
化粧台取付けの流れ

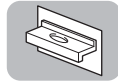
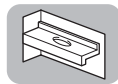
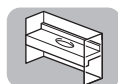
《化粧台取付けの流れ》

1. ベースキャビネットの下準備
2. 水栓金具本体の取付け
3. 排水器具の取付け
4. ベースキャビネットの取付け
5. けこみ板の取付け
6. カウンターの固定
7. 水受けタンクの取付け
（水栓金具の種類によって必要の有無が変わります。）
8. 止水栓の取付け
9. 排水トラップの取付け
10. 間口調整材の取付け（承認図をご確認ください）
（プランによって設置しない場合があります。）
11. エンドパネルの取付け（承認図をご確認ください）
（プランによって設置しない場合があります。）

《 取付手順に表示するマークの意味》

※取付手順が個別になる時に、対象となる部材を示します。

カウンター

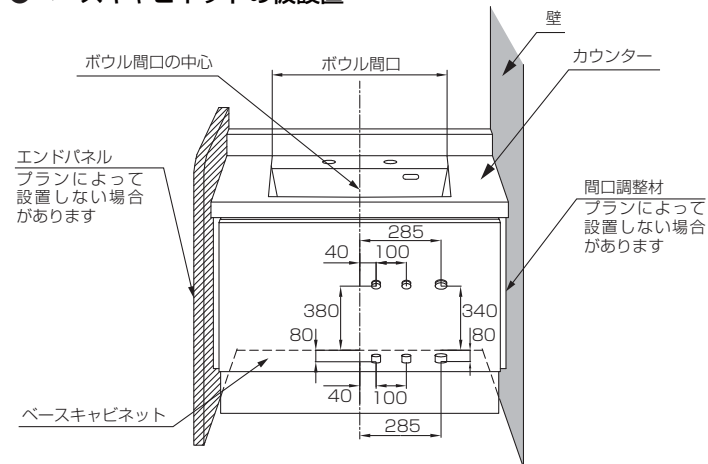
……カウンターの排水口の位置が右奥に存在する場合

……カウンターの排水口の位置が中央に存在する場合

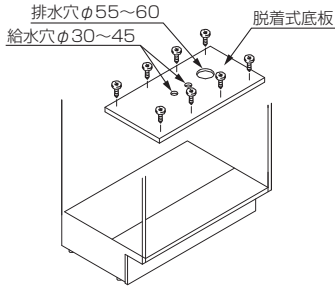
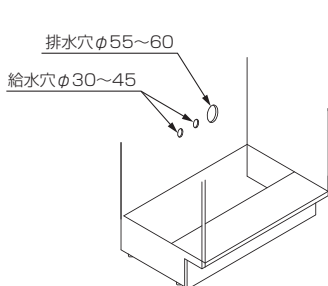
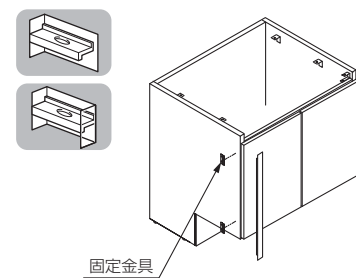
建築側壁情報

……商品の両側に壁設置無し

……商品の片側に壁設置

……商品の両側に壁設置

化粧台の取付け

❶ ベースキャビネットの下準備

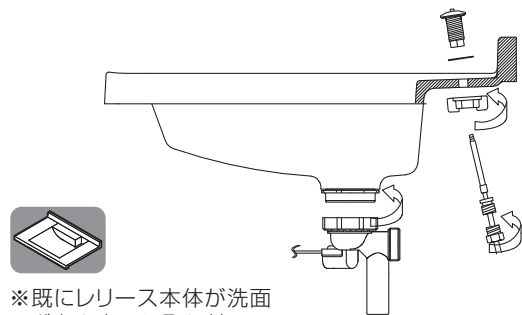
●ベースキャビネットの仮設置

※扉・引出しの取外しは、7ページより記載しています。

●給水管・排水管接続用穴あけ

現場の給水・排水位置に合わせて指定の穴を指定サイズのホルソーや、カッターナイフであけます。
左図の給排水位置が標準位置です。

〈床から接続する場合〉　〈壁から接続する場合〉

●間口調整材付きプランの場合

間口調整材取付用固定金具をベースキャビネットに固定します。
※間口調整材に同梱の取付説明書をご確認ください。

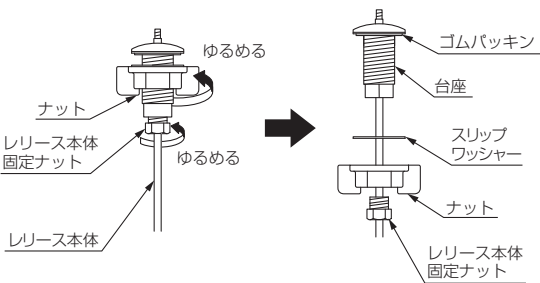
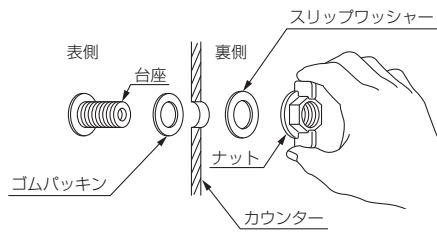
❷ 水栓金具本体の取付け

水栓金具付属の施工説明書をご確認ください。

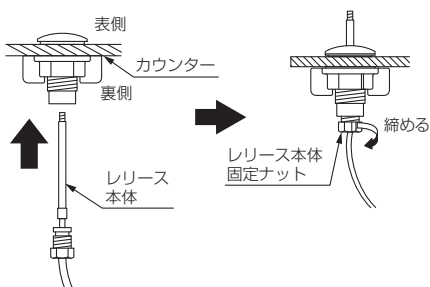
❸ 排水器具の取付け

※既にレリース本体が洗面ボウル裏面に取り付いている場合があります。

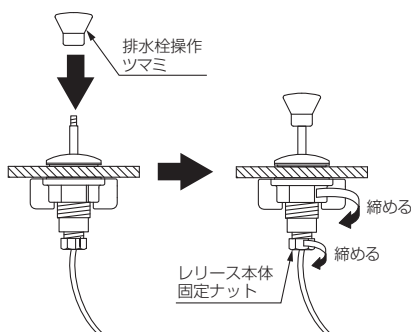
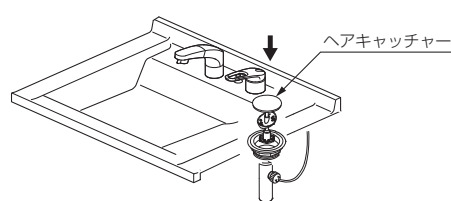
⚠注意

- ●取付け時にレリースワイヤーを無理に曲げたり、引っ張ったりしないでください。
  - ※排水栓の開閉不良の原因になります。
- ●強く締めすぎないようにしてください。
  - ※排水口部分が破損し、漏水を引き起こす恐れがあります。
- ●ナット類は手でしっかりと締め付けてください。
  - ※締付けが不十分だと漏水を引き起こす恐れがあります。

①レリース本体固定ナット、固定ナットをゆるめ、レリース本体、スリップワッシャー、ナットを台座から外します。

②カウンターに台座を取り付けます。

⚠注意

ゴムパッキンとスリップワッシャーの取付位置を確認してください。
※取付位置を誤った場合、漏水を引き起こす恐れがあります。

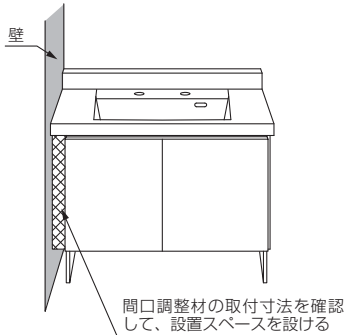
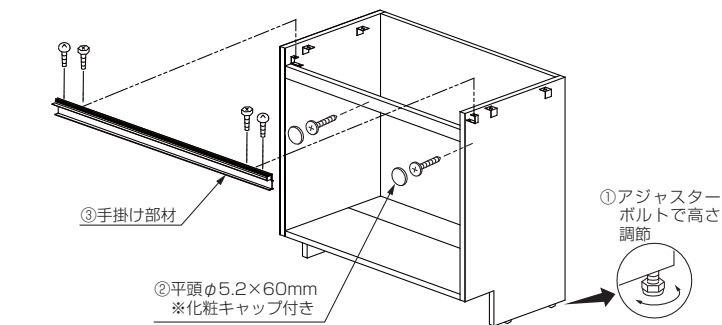
③レリース本体を台座に通し、ナットで固定します。

④レリース本体の軸を引いた状態で、レリース本体の軸の先端に排水栓操作ツマミボタン(小袋に同梱)を取り付けます。
(締め付けトルク200N·cm〔20kgf·cm〕以上)

※軸を工具で固定する場合は、軸がキズつかないよう、ウエスなどを巻いて保護してください。
※ねじには乾式の接着剤(赤)が塗布してあります。ボタンを取り付けると接着剤が硬化し始めますので、一度締めたボタンは外さないでください。

⑤洗面ボウルの排水口にヘアキャッチャーを取り付けます。

❹ ベースキャビネットの取付け

お願い

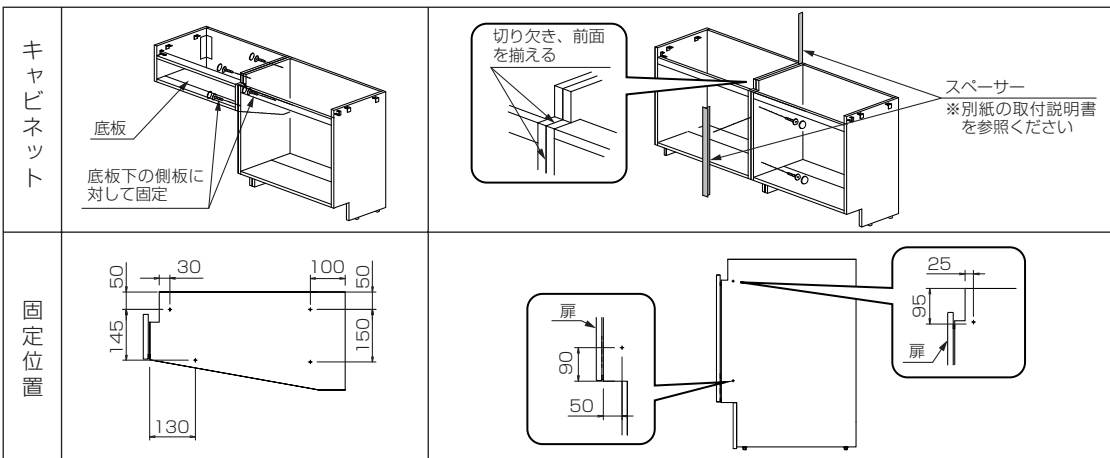
化粧台の水平が出ないと破損、ガタツキが発生する恐れがあります。水平が出ているか、十分に確認してください。
※複数のキャビネットを設置する場合は、壁面に接するキャビネットから順に設置してください。

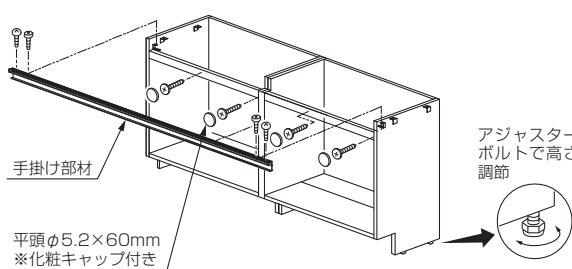
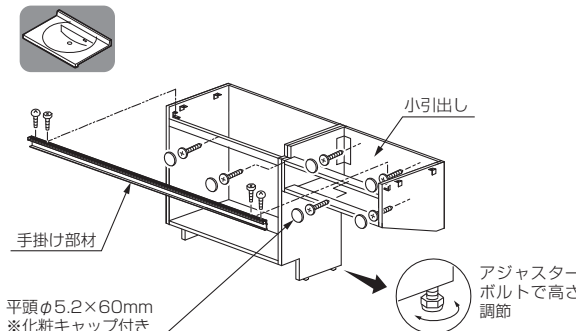
〈間口調整材付きプランの場合〉

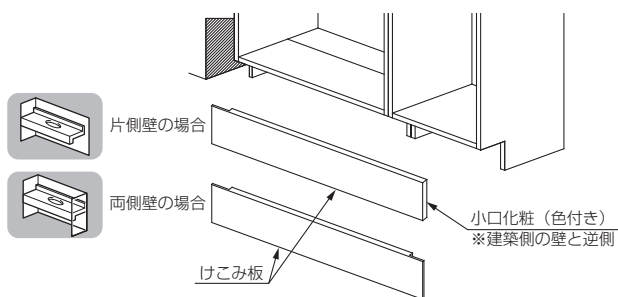
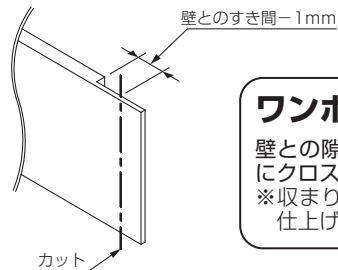
間口調整材の設置寸法確保のため、ベースキャビネットは壁から離して取り付ける必要があります。
※承認図より寸法をご確認ください。

〈キャビネットを2つ併設する場合〉

隣接するキャビネットをねじ（平頭Φ3.8×28mm）で連結します。
ねじで固定した後にキャップを取り付けてください。

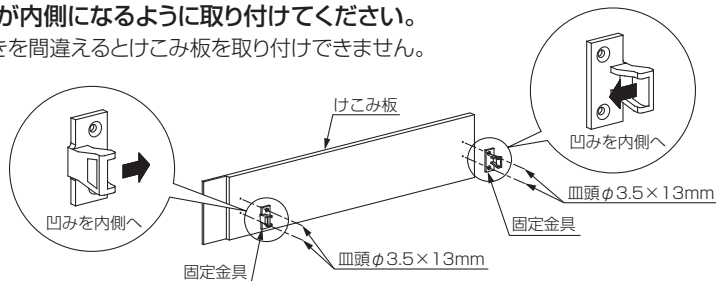
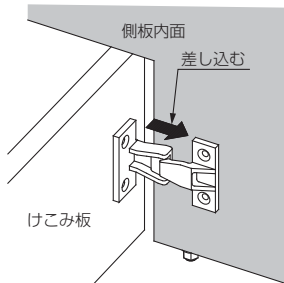
●キャビネットの固定

<キャビネット共通>
手掛け部材　固定用ねじ
外側
なべ小ねじ
M4X12mm
内側
ドリル
タッピンねじ
M4X13mm

■複数キャビネット設置

〈サイドに小引出しが設置されない場合〉

〈サイドに小引出しが設置される場合〉

❺ けこみ板の取付け

①けこみ板の取り付ける向きを確認します。

②キャビネットと壁のすきまを測定し、けこみの切欠き位置から壁との隙間測定寸法－1mmの寸法でけがき、切断してください。
※けこみ板の両側が小口化粧している場合は、切断しません。

ワンポイント

壁との隙間寸法ギリギリでカットすると取り付け時にクロスを傷つける恐れがあります。
※収まり寸法より小さめにカットしてコーキングで仕上げることをオススメします。

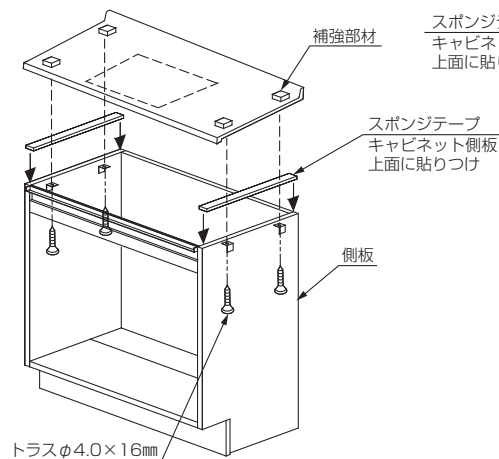
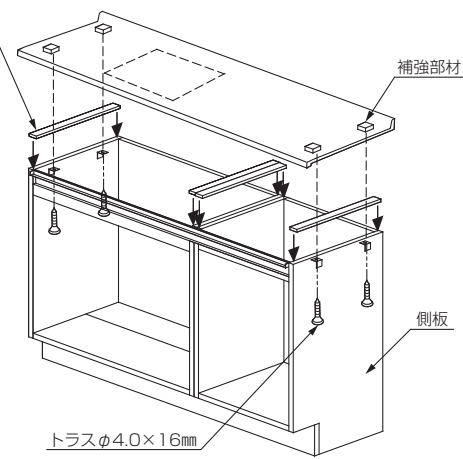
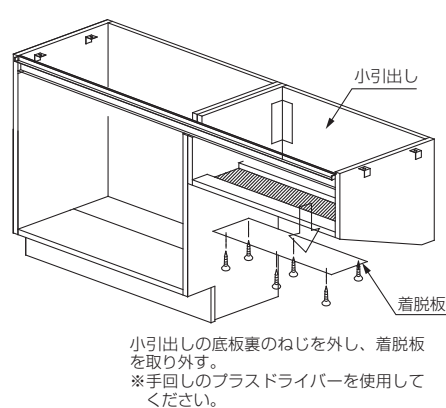
③けこみ板にキャビネットに同梱の固定金具を取り付けます。
（皿頭φ3.5mm×13mm…2本/個）
凹みが内側になるように取り付けてください。
※向きを間違えるとけこみ板を取り付けできません。

④キャビネットに取り付いている金具の位置を確認し、けこみ板を差し込んでください。

❻ カウンターの固定

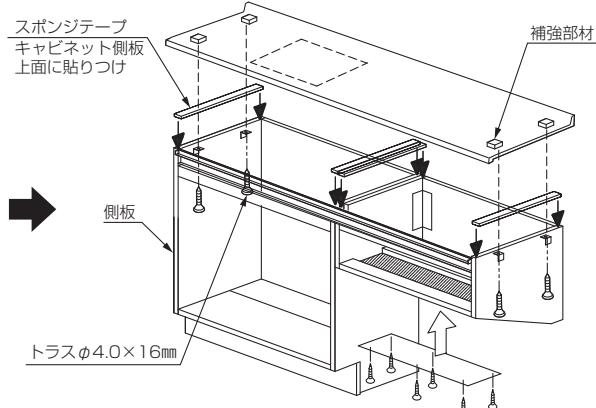
カウンターを固定する前に、カウンターの左右位置を調節します。
※設置プランによって、キャビネットに対してのカウンターの固定位置が変動します。
下図表より、設置プランをご確認ください。
※壁の仕上がりによって、隙間寸法が変動することがあります。

間口調整材が無いプラン	
キャビネット条件	プランイメージ
両側に壁や商品を設置しない	A A
片側に壁がある	壁 B A
片側にトールキャビネットかエンドパネルを設置する	B A
片側に壁、逆側にトールキャビネットかエンドパネルを設置する	壁 C C
両側にトールキャビネットかエンドパネルを設置する	C C

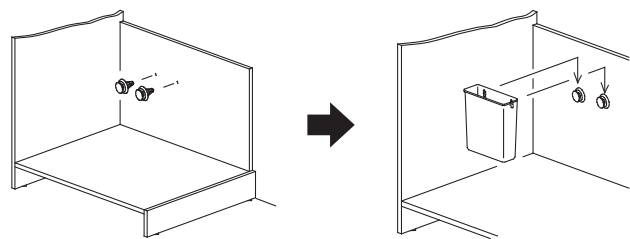
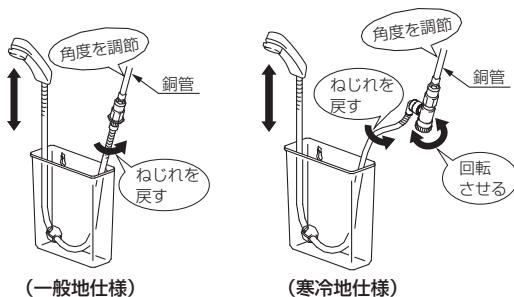
間口調整材があるプラン	
キャビネット条件	プランイメージ
片側に壁がある	壁 D A 間口調整材
片側に壁、逆側にトールキャビネットかエンドパネルを設置する	壁 D B 間口調整材
両側に壁がある	壁 E E 間口調整材

カウンター収まり			
A	カウンターがち / カウンター / 扉 / 側板	D	シリコン代約2mm / 壁 / カウンター / 扉 / 側板 / 間口調整材
B	面を揃える / カウンター / 扉 / 側板	E	左右均等に調節 2~5mm / 壁 / カウンター / 扉 / 側板 / 間口調整材
C	左右均等に調節 2~5mm / 壁 / カウンター / 扉 / 側板		※左側の図を示しています。右側の場合は左右反転してください。

※スポンジテープ・カウンター固定用のねじは水栓金具が入っている梱包材の中にあります。

■間口サイズ1250mm未満　■複数キャビネット設置

■複数キャビネット設置（小引出し付き）

ワンポイント

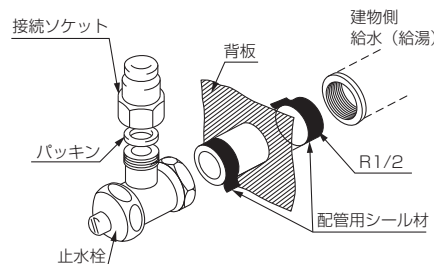
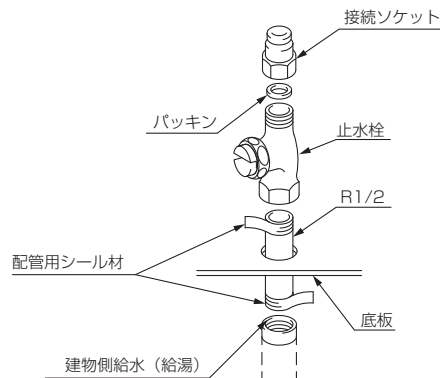
スポンジテープは側板の端から2mm控えた位置に貼り付けてください。
側板よりもスポンジテープが長い場合、側板に長さを合わせて切断してください。

❼ 水受けタンクの取付け

※水栓金具によって必要の有無があります。
水栓金具セットの中に同梱されている場合は取り付けてください。

キャビネット背板のガイド穴2ケ所に付属のクリップを差し込み、水受けタンクを取り付けます。

※水受けタンク取り付け後、ホースの動きを確認してください。
※ホースが止水栓と干渉したり、水受けタンクに収まりにくい場合は、次のように調節してください。
調節が不十分な場合、ホースが出し入れしにくい。ホースが引っ掛かって水受けタンクが外れる。などが発生する場合があります。

（一般地仕様）　（寒冷地仕様）

❽ 止水栓の取付け

止水栓はメンテナンス・流量調節に必要なため、必ず取り付けてください。
※止水栓は別途手配です。

〈壁給水の場合〉
※止水栓手配品番
一般地:LF-3K-MB
寒冷地:LF-3K-MB-U

〈床給水の場合〉
止水栓長さは承認図をご確認ください。
※キャビネット高さ、水栓金具の種類によって配管長さが異なります。

❾ 排水トラップの取付け

●取付前の確認

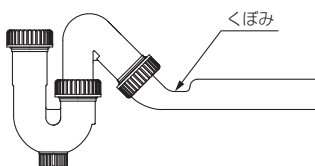
レリース機構部、オーバーフローはあらかじめ化粧台に取り付いています。レリース機構部、オーバーフローの袋ナットがゆるんでいる場合は3.5N・mで締め付けてください。

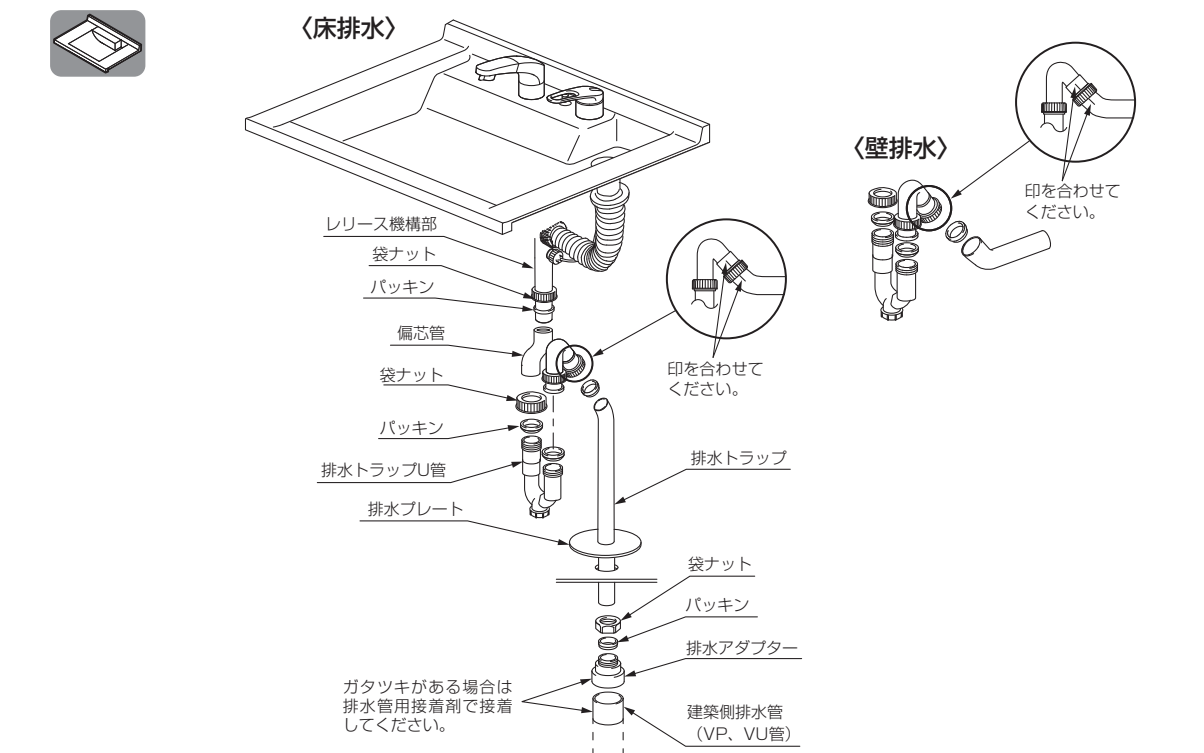
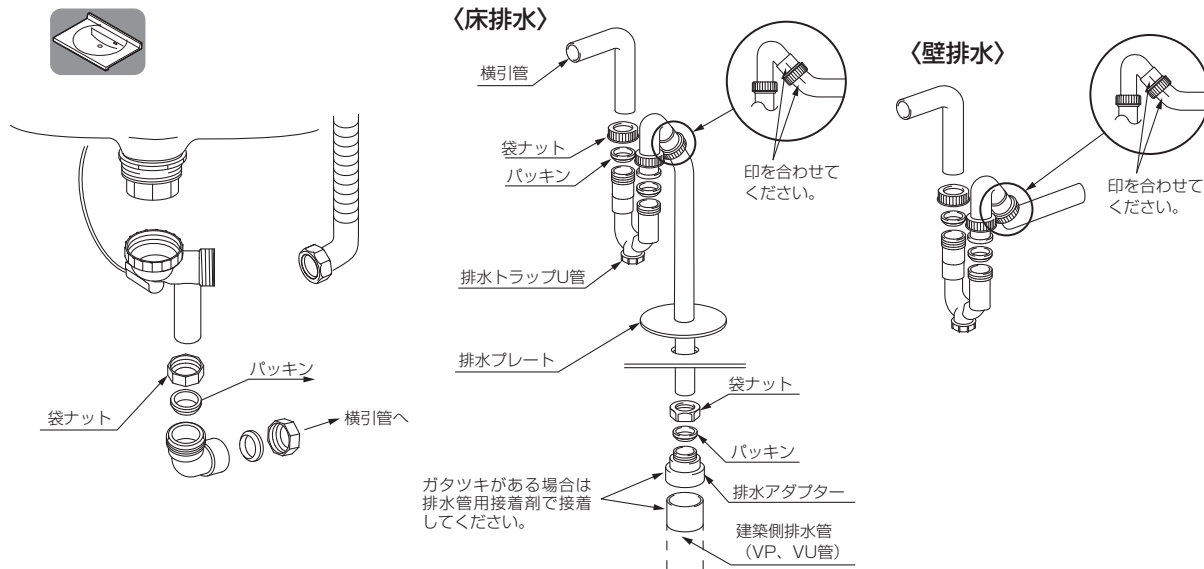
トラップ取付時の注意

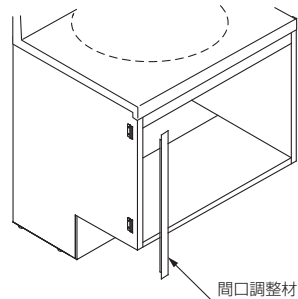
- 袋ナットは手でしっかりと締め付けてください。
- あらかじめレリース機構部下部に袋ナット、パッキンを通し、それから排水トラップU管を差込部の最後まで入れてください。
- 床排水の場合、建築側排水管に排水アダプターを接着して固定してください。
- 壁排水の場合は市販の排水アダプターを使用してください。
- 建築側排水管と開口部にすき間がある場合は、シリコンでコーキングしてください。
- 配管の接着は接着面全面に塩ビ用接着剤を十分に塗り、奥まで十分に押し込み接着してください。
  ※排水アダプターの上部の袋ナットをしっかりと締めてください。排水トラップのガタつきや、臭気もれの原因になります。

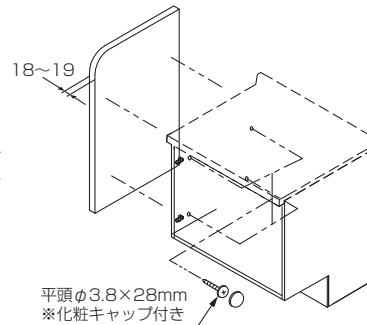
⚠ 注意

- ●壁排水時、排水トラップのくぼみが建築側の継手やアダプターと重ならないように注意してください。
- ●接着には耐熱塩ビ用接着剤は使用しないでください。
  ※漏水し、家財などを濡らす財産損害発生の恐れがあります。
- ●ナット類は手でしっかりと締め付けてください。
  ※締付トルクの目安は3.5N・m です。
  ※締付けが不十分だと漏水を引き起こす恐れがあります。
- ●袋ナットは強く締めすぎないようにしてください。
  ※排水口部分が破損し、漏水を引き起こす恐れがあります。
- ●排水トラップは、印を合わせて取り付けてください。
  ※排水能力が悪くなり、漏水を引き起こす恐れがあります。
- ●引出しなどが排水トラップに干渉していないか確認してください。
  ※干渉していると、接続部が外れ漏水を引き起こす恐れがあります。
- ●排水トラップのナットの位置は、化粧台の奥側に向けてください。
  ※収納物が配管に当たり漏水する恐れがあります。

くぼみ

⚠ 注意

- ●パッキンの向きに注意してください。
  - ・管は奥に当るまで差し込んでください。
  - ・袋ナットはしっかり締めてください。
  ※漏水し、家財などを濡らす財産損害発生の恐れがあります。

❿ 間口調整材の取付け（承認図をご確認ください）

設置プランによって取り付けます。
承認図より、取付けの有無をご確認ください。
取付けが必要な場合は、間口調整材に同梱の取付説明書をご確認の上ベースキャビネットに取り付けてください。

⓫ エンドパネルの取付け（承認図をご確認ください）

設置プランによって取り付けます。
承認図より、取付けの有無をご確認ください。
取付けが必要な場合は、エンドパネルに同梱の取付説明書をご確認の上ベースキャビネットに取り付けてください。

周辺キャビネットの取付け

スペーサー・エンドパネル・間口調整材を取り付ける場合は、各商品に同梱の取付説明書をご確認ください。

スペーサー

エンドパネル

エンドパネル　キャビネット背面合わせ

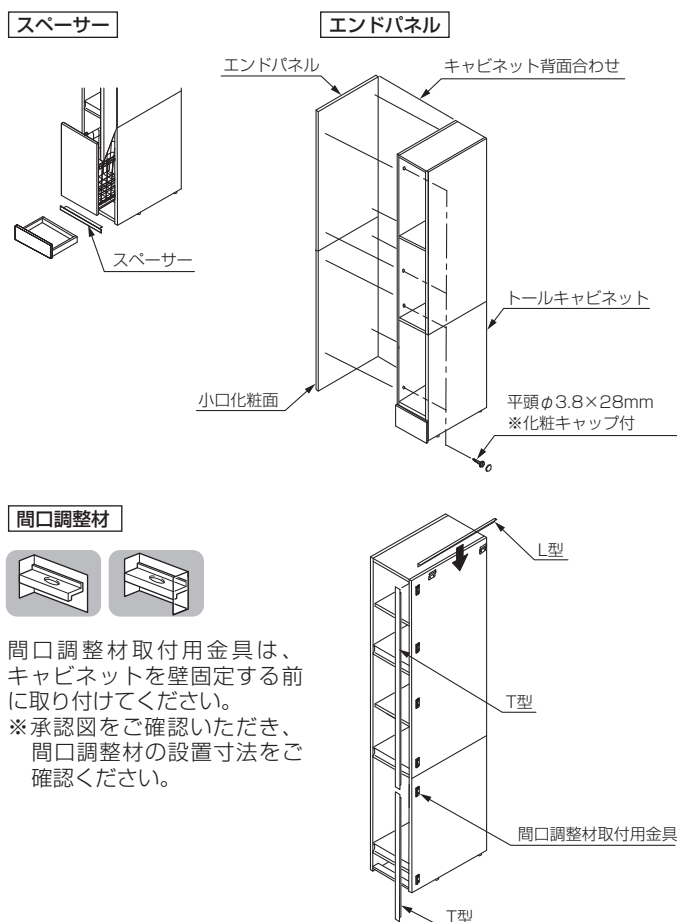
スペーサー

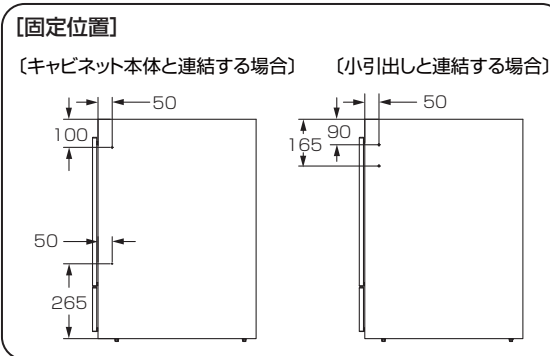
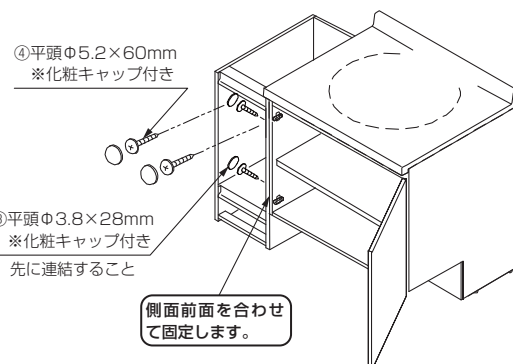
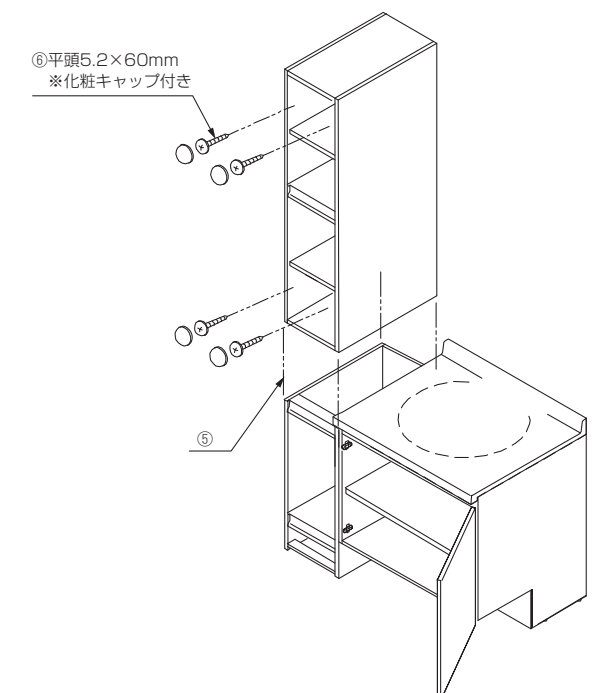
トールキャビネット

小口化粧面

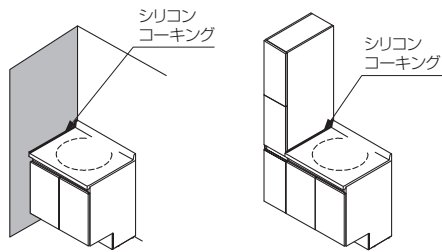
平頭φ3.8×28mm
※化粧キャップ付

間口調整材

間口調整材取付用金具は、キャビネットを壁固定する前に取り付けてください。
※承認図をご確認いただき、間口調整材の設置寸法をご確認ください。

●取付方法

①数字下部キャビネットを化粧台キャビネットの隣に仮設置します。
②けこみの高さが合わない場合はトールキャビネット（下部）のアジャスターボルトで調節してください。
③キャビネット同士を連結用ねじ（平頭φ3.8×28mm）で固定します。
④下部キャビネットを固定用ねじ（平頭Φ5.2×60mm）で壁に固定します。
⑤下部キャビネット上面のダボに上部キャビネットをはめ込みます。
⑥上部を固定用ねじ（平頭Φ5.2×60mm）で固定します。

カウンター周囲のシール

●カウンターと壁あるいは隣接キャビネットとの合わせ部をシリコンでコーキングします。
※カウンターや壁材に合わせてコーキング材の色を現場で選定してください。色に迷った時は下表を参考にしてコーキングしてください。

カウンターの色	コーキング材推奨色
濃い色　例）ラピシアグレー パールブラック	黒色
淡い色　例）ラピシアベージュ グラニットナチュレベージュ	ベージュもしくはアイボリー
白色	白色

⚠ 注意
コーキングしないと、合わせ部から水が浸入しキャビネットや壁・床を傷める場合があります。
取付後の確認

■キャビネット本体の確認
下記項目を確認してください。
○固定ねじが十分に締まっていること
○ガタつきがないこと
※ガタつきがある場合はねじ位置をかえて取り付け直してください。
○扉のちりがそろっていること
※そろっていない場合は、後述の「扉の調節」で調節します。

■吐水量、排水量の確認
①レバーハンドルを全開にしたときに、水側または湯側の流量が設定流量を超える場合は、湯水の流量が同じになるように、止水栓で調節してください。
※流量設定目安は、水栓金具に同梱の施工説明書をご確認ください。
②排水栓を開け、水を一度に排出し、トラップ、排水管の各接続部からの水漏れのないことを確認します。

■吐水口の掃除
通水確認時に吐水口の掃除を実施してください。
※詳細は、水栓金具に同梱の施工説明書をご確認ください。

扉の取付け・取外し、ちり調節

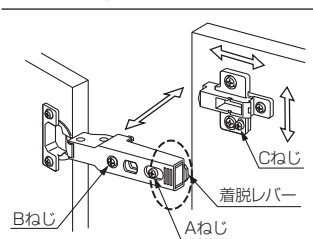
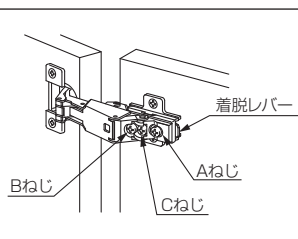
※あらかじめ蝶番用ダンパーが取り付いている場合は、P.8 を参照し、一旦ダンパーを取り外して調節や取外し・取付けをおこなってください。

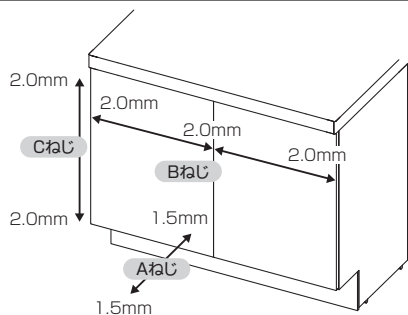
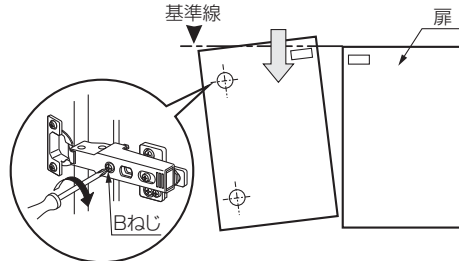
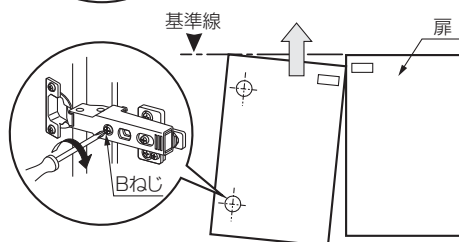
扉の調節

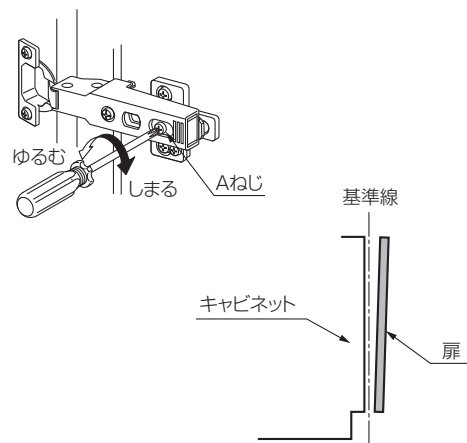
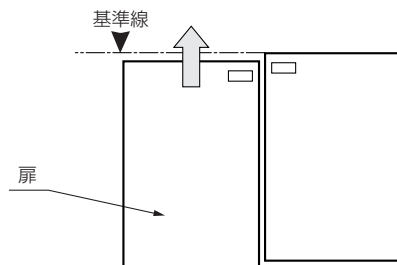
ワンポイント
●Aねじ、Bねじ、Cねじは扉を取り付けたままで調節できます。
●2枚扉（両開き）の場合で、片方の扉だけで調節できないときは、左右の扉で交互に調節を行ってください。
●Aねじ調節時は、扉を90°以上開かないでください。扉とキャビネットが干渉して、調節できない場合があります。

■準備するもの

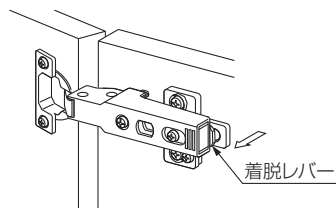
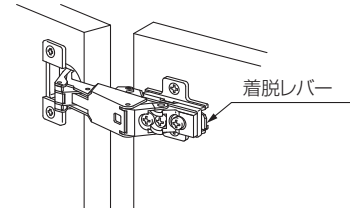
手回しプラスドライバー

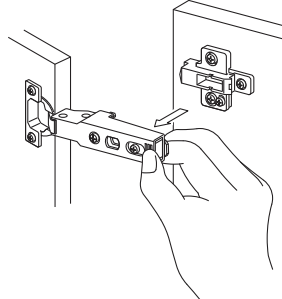
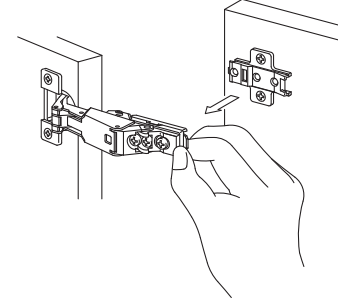
タイプⅠ（〇部に3本線があるもの）

タイプⅡ

⚠ 注意
●調節後は必ず、Aねじ、Cねじが硬く締め付けられていることを確認してください。
※ゆるんでいると、蝶番が外れて扉が落下し、ケガをする恐れがあります。
各ねじの調節方向と調節量

Aねじ （前後調節）	ねじを軽くゆるめて、扉を前後に少しずつ動かして調節します。 前へ1.5mm、後へ1.5mm
Bねじ （左右調節）	右へ回す→右[下]側へ2mm 左へ回す→左[上]側へ2mm
Cねじ （上下調節）	ねじを軽くゆるめて、扉を上下に少しずつ動かして調節します。 上[右]へ2mm、下[左]へ2mm

〈扉の先端が上がっているとき〉
①扉上方の蝶番のBねじを右へ回して調節します。または、扉下方の蝶番のBねじを左へ回して調節します。
②扉を閉めて確認します。
③正しい位置になるまで①、②を繰り返します。

〈扉の先端が下がっているとき〉
①扉下方の蝶番のBねじを右へ回して調節します。または、扉上方の蝶番のBねじを左へ回して調節します。
②扉を閉めて確認します。
③正しい位置になるまで①、②を繰り返します。

〈扉と側板のすき間が上下異なるとき〉
【タイプⅠ】
①扉上方の蝶番のAねじを左右へ回し、扉を動かして前後の正しい位置にします。
（基準値：すき間2mm）

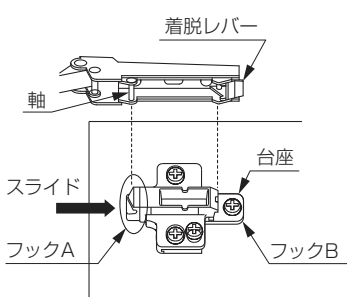
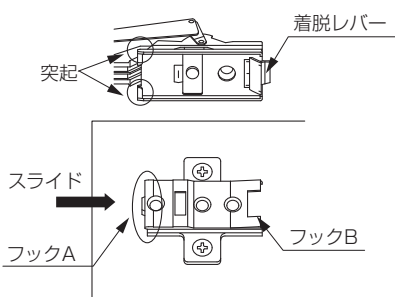
【タイプⅡ】
①扉上方の蝶番のAねじを左へ回してゆるめ、扉を動かして前後の正しい位置にします。（基準値：すき間2mm）
②正しい位置でAねじを右へ回して締め付けます。
③正しい位置になるまで①、②を繰り返します。

〈扉の位置が上下異なるとき〉
①扉上下の蝶番のCねじを左へ回してゆるめ、扉を上下させて正しい位置にします。
②正しい位置でCねじを右へ回して締め付けます。

扉の取外し

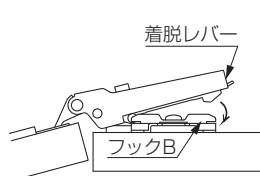
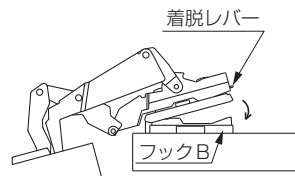
①着脱レバーを手前に引っ張ります。

【タイプⅠ】

【タイプⅡ】

②蝶番を矢印の向きに引っ張って、取り外します。

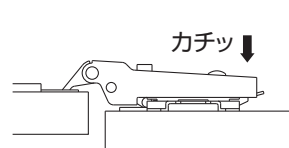
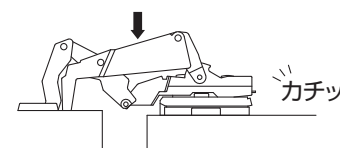
【タイプⅠ】

【タイプⅡ】

扉の取付け

①扉を矢印の向きにスライドさせて蝶番の軸または突起をフックAに引っ掛けます。

【タイプⅠ】

【タイプⅡ】

②脱着レバーをフックBに合わせます。

【タイプⅠ】

【タイプⅡ】

③蝶番を矢印の向きに「カチッ」と音がするまで押します。

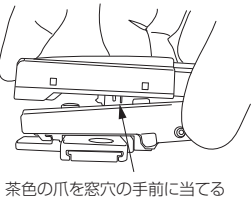
【タイプⅠ】

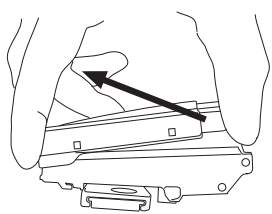
カチッ

【タイプⅡ】

⚠ 注意
●扉の取り付け後は蝶番が台座へしっかりはまっていることを確認してください。
※扉の外れや落下によりケガをする恐れがあります。

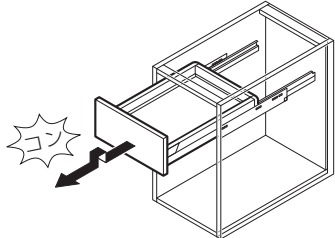
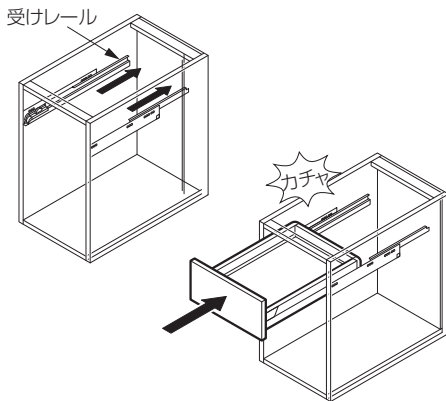
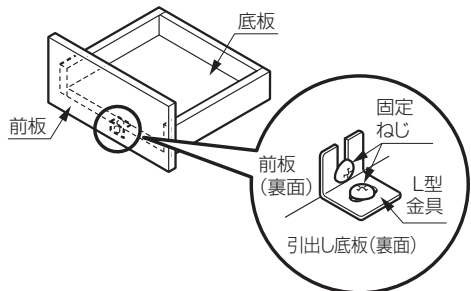
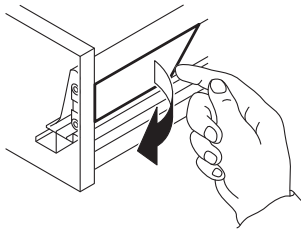
蝶番取付用ダンパーの着脱方法

取付け・取外しの際は、必ず保護用手袋を着用して行ってください。

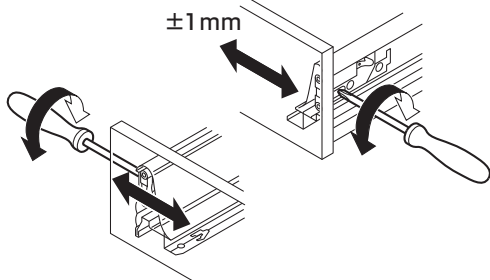
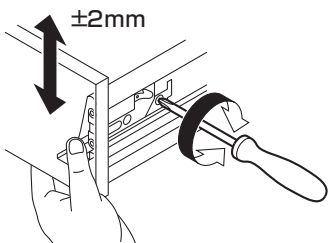
■蝶番取付用ダンパーの着脱方法

●取付方法
裏側に付いている茶色の爪を蝶番の窓穴の手前に当て上から押し、取り付けます。

茶色の爪を窓穴の手前に当てる

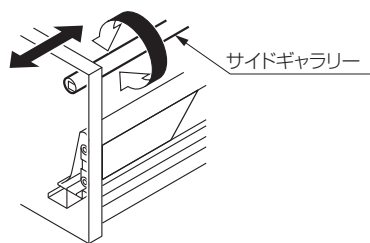
●取外し方法
親指で樹脂部を持ち上げるようにして引き、取り外します。

引出し（フルスライド、トールキャビネットランドリータイプ）の取付け・取外し、ちり調節

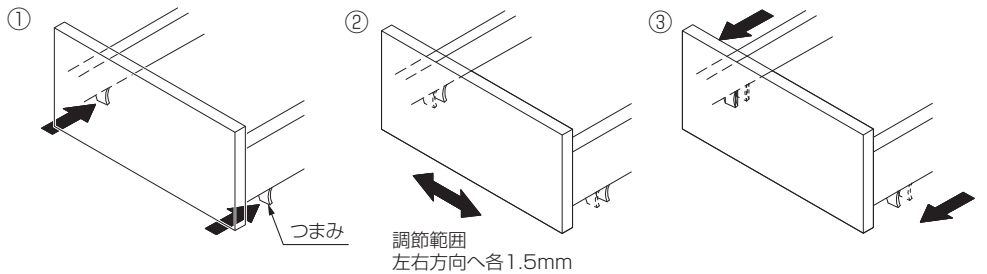
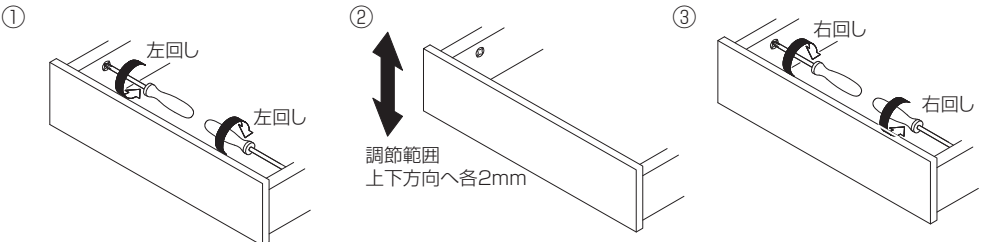
■引出しの取外し方法
引出しを止まるところまで引き出し、一度少し上に持ち上げ（コンという音がしてロックが外れます）てから、さらに手前へ引き出します。

■引出しの取付方法
①ユニット本体側の受けレールを奥まで押し込みます。
②引出しを受けレールに乗せ、奥まで押し込みます。その際、カチャと音がしてロックされます。
※取り付けた後は、数回引出しを開閉させ正確に取り付けられている（ガタつき・異音がしないか）ことを確認します。

■引出しの調節
①調節前の準備
引出し前板裏面と引出し底板の間に、L型金具が取り付けてあります。引出し調節（前板の傾き調節以外）を行う際は、必ず固定ねじをゆるめて（金具が動く程度）から行ってください。また、調節完了後は必ず固定ねじを締め付け直してください。

②引出し本体横の化粧カバーを取り外します。

③-1 左右の調節
図のように、左右調節ねじを回して調節します。

〈右へ移動する場合〉
右側ねじを右へ回し、左側ねじを左へ回す。

〈左へ移動する場合〉
右側ねじを左へ回し、左側ねじを右へ回す。
※調節は、引出し本体の左右共に行ってください。
※調節範囲：左右方向へ各1mm（計2mm）程度

③-2 上下の調節
図のように、ねじを少しゆるめます。
引出し前板の上下位置を調節し、ねじを固く締め付けます。
※調節範囲:上下方向へ各2mm（計4mm）程度

③-3 前板の傾きの調節
（サイドギャラリー付き引出しのみ対応可能）
図のように、サイドギャラリー（パイプ部）を回し、前板の傾きを調節します。

〈前板を手前へ倒す場合〉
左へ（前板正面から見て）回す

〈前板を後方へ倒す場合〉
右へ（前板正面から見て）回す
※サイドギャラリー後方の樹脂部品（グレー色）のねじ部にすき間が残りますが、このすき間は調節しろです。

〈オープンセット小引出し、トールキャビネットランドリータイプ　けこみ収納の場合〉

■左右の調節
①引出し側のレールについているつまみを奥に向かって押します。
②つまみが奥にある状態で、前板を左右に動かして調節します。
③つまみを手前にスライドさせると前板が固定されます。

■上下の調節
①引出し内側にあるねじを手締めのドライバーでゆるめます。
②前板を上下に動かして調節します。
③ねじを締めなおすと前板が固定されます。

トールキャビネット（間口150）引出しの取付け・取外し、調節

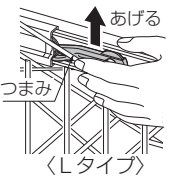
〈トールキャビネット（間口150）の場合〉

■引出しの取外し方法

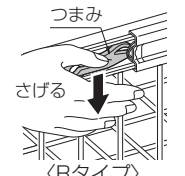
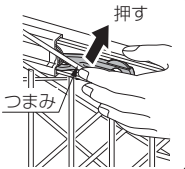
扉前面から
つまみまでの寸法
250mm
上レール
下レール

上図はLタイプです

①引出しを最後まで引き出します。

〈Lタイプの場合〉
②下レールのつまみを押し、手前に引きます。
③上レールのつまみを上げそのまま引出しを引き出します。

〈Rタイプの場合〉
②下レールのつまみを押し、手前に引きます。
③上レールのつまみを下げそのまま引出しを引き出します。

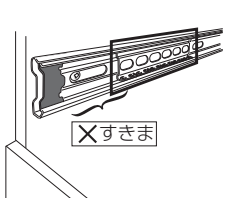
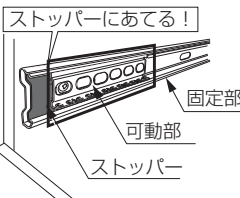
下レールは押してください。

押す
つまみ

■引出しの取付方法
①キャビネット本体側のレールを手前に引き出し、引き出し側のレールと合わせます。
②引出しを最後まで押し込みます。

⚠ 注意

●引出しを取り付ける際のご注意
※レール内部の可動部の位置に注意して取り付けてください。ずれた位置で取り付けた場合、レールが破損し、動作不良の原因となる恐れがあります。

○ 正しい位置

× ずれた位置

●引出しを取り付けた後は、数回開閉させ、ガタつきや異音がしないかなど、正確に取り付けられていることを確認してください。
※正確に取り付けられていないと、引出しが使用中に外れてケガをする恐れがあります。

■引出しの調節方法
①前板固定部のねじをゆるめます。
②引出しを前板を上下左右に動かして、正しい位置にします。
③ ①でゆるめたねじを固く締めつけます。